



日本書紀
卷之三

倭字古今通例全書卷三

自和至與



和變和變和變和
又王變王變已

乾坤 和 王城

風土記曰神武ヨリ景行ニテ十二代大和ノ柏原ニ都ス
。成務近江滋賀ニ都ス。仲哀長門ノ豊浦ニ都ス。應神
大和ノ稚櫻ノ宮ニ住。神功同州輒島照宮ニ住。仁德撰州難波ノ高
津ノ宮ニ住。反正河内柴籬ノ宮ニ住。允恭和州飛鳥ノ宮ニ住。雄
略同州泊瀬朝倉ノ宮ニ住武烈ニテ五代。繼躰五年山城ノ綴喜ニ
二年後乙國ノ宮ニ移ル。宣化大和ニ迂リ郡々ニ都ヲ立皇極ニテ八代
。孝德撰州長良ニ迂リ豊島ニ宮住。齊明大和ノ岡本ニ宮住是ヲ清
原ト云天武ニテ三代。持統文武ニ代藤原ニ宮住。元明ヨリ光仁ニテ
七代奈良ニ立都。桓武正曆三年十月二日奈良春日ノ里ヨリ長岡ノ
京ニ迂リ其ヨリ愛宕郡ニ立都帝王三十代星霜三百八十年也
蓋謂六十院八十大高倉院之時兵庫ノ福原ニ暫ク迂都ト云云余未
三十三代ノ不替都テ帝王百十四代神武元ヨリ元祿五年ノ二十三百五十二年也

ワラエ

若江

河内郡名

ワラエ

矮屋ヒクキ家之

ワラエ

忘井

伊勢ノ名所千載ニイコ
ワラエ

ワラエ

度會

順倭又日本紀垂仁記ニ渡遇トアリ伊勢郡名
古書ニワラエトアリ不詳新古ニ匡房考ク代也

氣形

ワラト

皇子

訓ヒツキ
ノミコト

ワラト

王命婦

源氏物
語紹巴

抄云王氏ノ別ニ姓ヲ
玉ハラヌ間ハ如斯ト

ワラト

王戎

七賢
ノ内

ワラト

童

礼記曰一未冠称也文選東京賦ニ侏子
ノ二字ヲ訓ス俗ニ一部トカリ

ワラト

僮僕

シモベト又マツコトモ訓ス又
木のりハ男一ノ女一

ワラト

王羲之

晋右軍
尤善書

ワラト

王元章

元朝登
工得梅

ワラト

王昭君

又明妃ト云漢元帝ノ宮女胡国へ嫁クル者之馬背ニ
琵琶ヲ弾メ哀怨ノ聲ヲナス依テ又音楽ノ名ヲ

ワラト

ワラト

王質

仙人ノ圍碁
ヲ見テ斧ノ

柄クツルト云今畫
圖ニ多シ

ワラト

弱黨

俗ニ若一
又一侍

ワラト

髮髮

ソリカミ
凡多識ニ

ワラト

黃鷹

一歳ノ
ワカカ

ワラト

ワラト

ワラト

生指

ワケラシ

嬾葉

万葉ニアリ木ノワカ葉ニ又ワケルハ病葉イタミテ紅葉スルニ又ワケルハ邂逅タニサカノ義ナリ

ワケギ

黄耆

頰倭ニラガサト訓ス附クキ一葉又ワケル精又ワケル一連又ワケル一茶又ワケル一茶

蜀蔡俗ニ云トロ、造紙用之ヲ多識ニ

服器

ワケギ

又一雜布ニカク細美ノアラキ

ワケル

黄金

又同訓一茶藥名

ワケル

和歌髓腦

書名公任卿

ノ作凡四病七病八病等ノアラハセリ

ワケル

黄土

畫具

ワケル

蕪

エンガクノ頰倭ニラガサト圓座ノニ字ヲ訓ス伊物ニワケルトアリ

ワケル

脇楯

上字作脅同附クイナク脛一又脛衣ト書クモハイクテ訓史記註

ワケル

月谷

輪違ナリ

ワケル

尿

籩ノ柄ナリ

ワケル

草鞋

ワケルニ訓相通

雜事

ワケル黄鐘調

ワケル

ワケル

皇鹿草

平調ノ藥

ワケル

往亡日

此日出行ヲ忌ノ由陰陽家ニ所謂ク

ワケル

無分別

古語拾遺ニ又同書ニ不分アリ源氏ニモ此詞アリ

ワケル

瘡癩

又瘡病トモ

ワケル

枉惑

ワケル

活計

常ニ声ヲ用

ワケル

煩惱

一字ワケル又ナグミト

訓ス源氏ノ抄ニ

ワケル

災

作灾同又禍ノ害

かぶつ

甲賀 近江郡名

かまふ

蒲生 近列郡名 同名所一

くまふ

加納 美濃 在名

かんづら

上道 備前郡名 俗カシヤ

かめれやゆ

龜尾山

又くめたのやま又中略シテかめやま山城ノ名所 小倉ノ内ノ山腰ハ清瀧川ノ流シト名所方角ニ

くまふ

海路山

越前ノ名所建保抄ニハ飯山トアリ 新古ニたのりてもくろけくろきくろく

かめれや

香推宮

順倭ニカスイトアリ又箇飯日本紀仲哀記ニ福日トアリ旧事紀ニ榑氷トアリ筑前国糟屋郡ニアリ

くまふ

梶嶋 二字凡俗ニ 丹後名所

かきぎれ

柏木森 大和名所 奈良内

かきぎれ

語岡

未詳かきぎれのト云ハアリ又かきぎれのト云ハ談山供僧ハ常ニダンガント云和列ニ武峯之内大職官ノ廟上ラ云之方尔集ニさよふけて

くまふ

神路山 伊勢之此 山岩有

かきぎれ

神岡山

大和名所

かきぎれ

五ヶ所アリ神並森ハ山城国山崎ニ賀茂春日相並故此名アリ又神南備ノ御室トヨミニハ大和之神名帳ニハ甘南備トアリ又神南備新勅ニカキヒル教のありと云カレハトヨミニハ攝津之又トヨミ古今ニカキヒル神並トヨミニハ丹波ナリ又備中ニモアリト云神南備ハ方葉書神並

かきぎれ

笠縫里

美濃国青基ニ近シ名所方角ニ又大和ニモ同名アリ日本紀崇神記曰以天照太神ヲ託豊鍬入姫命ニ

祭於倭笠縫里云和洲ニ此所ヲ尋知人ナシ大和名所記ニモ不見

かほやぐぬま

可保夜沼

上野名所金葉ニ顯季東海の
かほやぐぬまれわきつゝ

うたののぎ

瓶井水

在撰州
天王寺

かろや

高野

紀伊国
伊都郡

昔日有明神与天野明神共守此山
嵯峨天皇之時沙門空海住于此山

かげろふれきの

蜻蛉小野

大和名所吉野ニ近ニ新後撰ニ為家より
辰ふこりてけろふれ小野つらまはれともえ

うさゆひごほ

笠結島

豊後国大方郡ノ名所。名所方角ニ豊前トアリ
新後撰ニ主御門院うさゆひのりたちかほやぐぬま

からにで

勝尾寺

撰州ニアリ續箕面山ニ此寺ニ
等身千手像アリト拾芥ニ

氣形うせえんろう

人王

かげんてん

孝謙天皇

四十
六代

女帝ノ再祚之時
号ニ称徳ノ一ト

うろそ

高祖

常ハヒオホ
ギシイトモ

かきれもこのまうちき

柿本大夫

上字作柿俗大和国忍海郡ニ柿本村ト云アリ
人丸ノ像アリ是出所カ宗祇法師カ名所方

物ノ元祖ヲ云辟異劉
季ヲ如云漢ノ一ト

うちねん

勝臣

作臣俗仁明
甥古今作者

角ニ石見国ニ有旧跡ト云サモアラカいとこのやたらの山比トイ
一トウ辞世ト云傳フ又鴨ノ長明ガ方丈記ニ人丸ノ基和列ノ
泊瀬ノ傍ニアリト云
又明石ニモ
かせふ
迦葉
釈迦弟子上
行第一ト云

うららのま

高良神

八幡末社武内宿禰ノ旧記曰壽始二百十余歳在
官二百四十四年景行成勢仲哀神功成神仁徳

うせうま

菅丞相

名道眞
醍醐帝

六代ノ帝ニ
事フト
ノ右大臣北野天神是也世人
かへらうせうト云ハ誤ナリ

かうう

項羽

名籍字子羽也少時学書不成学劍不成季父項梁
怒之ト曰書足以記名姓而已劍一人敵不足学

萬人敵^ラ於是項梁乃教兵法羽大喜略知其意^ラ又不肯^レ竟^ル学^ニ云云後与漢高祖劉季^ノ戰而失利^ヲ詳史記本紀第七

かんちるい

韓昌黎

韓愈字退之唐憲宗元和十四年爲刑部侍郎上表極諫佛骨事^ヲ在遷潮州刺史文起八代表

以六經之文^ヲ爲諸儒倡^ニ依^テ之學者仰^テ之^ニ如泰山北斗云云唐朝一人之學風也

くうせい

行成

藤原氏官大納言圓融院御宇生後一條時薨ス壽五十六能書也合道風佐理而号^ス三筆^ト

かたわ

乞兒

乞食ノ義^ノ順倭^ニ見タリ俗ニカツタ井ト云大和物語^ニカ^ニに^ハひ^ハら^ハ男^トは^ハい^ハの^ハす^ハと^ハアリ又土左日記

か^ニさ^ニど

方人

又荷擔人トモアリ

くこもの

片輪者

輿者トモ又禡字^ヲカ^ニん^トモカ^ニん^トモヨム唇音^ニメ^ノ源氏湏^六卷^ニハ^ハわ^ハる^ハく^ハと^ハアリ

かぶをうけん

甲乙人

貴賤上^ノ下^ノ義

更衣

女官^ノ大納言^ノ女奉^ル

くこれさ

看督長

職原檢非違使注^曰又當使補^ニ六十六人^ヲ此爲^レ遣^ル諸國^也トアリ

からころ

檝師

須倭^曰文選具都賦^ニ云檣工^ト倭書皆作^レ梶^ト又俗^ニカ^ニト^リト云

くよちやう

駕輿^ト丁

俗^ニ云^フカ^ニダ^リ

強盜

ガ^ニダ^リトモ

かみをう

金岡

益工^ノ下^ノ学集^曰一条院ノ時^ノ人^ノ巨勢^カ氏^ノ官^ノ大納言^ト有^リ誤^ク寛平^ノ時^ノ人^ノ字^多記^曰令^下昼師^ト御所^ノ南

鹿障子^ニ圖^ラ鴻^ト儒狀^トアリ

かりうご

狩人

くひたきれ

頑翁

伊物^ニ業^平早^下ノ^詞

かりい

考妣

生^ラ日^ニ父母^ト死^ラ早^下ノ^余雅^ニ

かみほあ

假名法師

野人^呼見^ラト云^フイ^ニダ^名モ^ナキ^マ

今案^ニイ

ノ時^カリ^ト九^ノ源^氏ニ^相壺^ノト^リアリ^リ醍醐帝^ノ寵^ヲ以^テ后^ニ推^ス古^書ニ^リウ^ノト^{アリ}不用

かせごさひ

悴士

くま

首

作首同又説文
頁又頭附され

鬪首

かたむね

顔容

又面子頰倭
注一眉目

同也ト云々又顔面ト書テ遊仙ニハ
ホツキト訓ス又クハト斗ハ顔

くい茶

今茶ニ云ハ

腕

作肘同

くまふ

頰白

頭半ハ白キヲ
云孟子曰一

者不負戴於道路
多識ニ槽尾トアリ

かろくま

膏盲

灸穴ノ名
背ニアリ

かいごひや糸

胛骨

須倭注日肩下ノ俗
カリガ子ボ子ト云

大夫

詩經ニ又
姝字

くかれはや

顔嚴

又一光
トモ

くほよ

大夫

詩經ニ又
姝字

からのおつこ

雁使

万葉ニ云々也
只雁ノ一ヲ蘇武ガ古事故云トゾ

又同訓ニ狩使国史及
伊物ニ見タリ

かおち

甲虫

注ハ毛虫ノ
下ニ委

くはゆき

蝙蝠

異名伏翼源氏ニ云ハ
是ハ共扇子ノ一ヲイリ又大和物語ニ云モ
これハるり

是ハ子ズミノ一トキコ

かこらう

河童

佳川利撰
人馬者也

敝龜

あゑとトモ
又あニ出

くいつかり

鷓鴣

にやこりイ
之異名多シ

鶴鳥

別録ニアリ
頰倭ニハ

はこりト訓ス此鳥似白鶴
巢樹上世ニ
以テカフノトリト誤レ
鶺鴒ハ小鳥ノ名也

かかせみ

翡翠

小ナルヲ云大ヲ
魚狗ト各テ同訓

黄雌雞

本件ニ出
ニハトリ也

くろり

鶺鴒

二歳ノ雁鳥ト云ハ
摠名ノ廣雅曰一歳名
之黄鷹ト
二歳名之撫ト三歳名之青ト白ト

く月ごら

鵝鳥

鴛鴦ノ異名御説ニ雉トアリ
花鳥ニ翡翠トアリ

かいご

卵

作卵俗鳥ノ玉子又かひこ解是ハ化スル
ナリ依テ假名モ替ケカヒコノ字作殊俗也

うつ

鯉

又堅魚此訓以例カハカ然レウラト云心ヲフム故ニト書
一字字書ニ有トイ(正注不分明本字ニナシ順倭ニ加豆平万
葉ニカカつたつてトヨメリ又一節愚案ニ一干ト可書
秋フシホシ五音一又順倭鹽梅類ニ煎汁ト書テカリといろク
ト訓ス注ニ本朝式ヲ引テ堅魚ノ汁也ト云
今世ニエダシノ一ナルベシ

かれい

王餘魚

順倭及下字集ニモ出タリ
一名比目魚又翰殘魚トモ

うづ

鮎

順倭ニ

かど

沙魚魚

一名吹沙
本字ニ

かへ

蛙

又蝦蟇附いきかへ蟾蜍徒然草也此之ををりけとハト
アリかへト云モカヘト云モ五音相通テ一ナリ

うひこ

右音ニかひト又用

先

作蚕俗ク順倭ニハコリト訓ス日本紀ニハ養一ト書テコク
ハト訓ス又くことトモ云衆子伊物ニホクにアハ小モハハ

くくニハ又言今序注
ふこはるよりト有

こう

蝸牛

又輸俗ニ云
ニヒクヅ

かけろふ

蜻蛉

又とらト訓ス俗ニトネウ本字注ニ名胡蝶又源氏巻
ノ名又徒然草ニけらあゆと云ナリ文字野蠲トカケリ
是ハ常ニヒをむト訓ス又かけらふ此りあまひくヨメルハ
陽焰ノ一之是シハト云文字遊系又是シ野馬ト云

かう

寄居蟲

古訓カミ
ナ拾遺ニ

かひ

烏毛虫

順倭

かう

馬刀

世ニテト訓スルハ雜書等ニナラヒテ之を誤レリ
ゆてハ煙字共ニ本字ニ出タリ

生種 かう

柑類

附クド乳柑子水鏡云聖武神龜二年モロマシヨ
柑子ノ種ヲ求来ル是ヨリ此国ニアリト

かい

海棠

異名海紅又楊
貴妃カ名

うえ

楓

又雞冠木
同訓

かんしけ

苦竹

須俵ニ箸竹トアリ本朝式ニ川竹トアリ
徒然草ニ云呉竹ハ葉如ク川竹ハ葉ひら

くづ

藟

又藟同訓又
鬪 籀文ニ

くろえ

草麻子

上字作
草俗ニ

常ニ声ヲ呼デ
ヒミシト云

かいら

黄草

染物ニ用定
本朝式ニ

かりやす
川安ト有

くいさう

海藻

下字又作
藻声ヲ

用ル時ハ海菜ノ惣名訓スル
時ハろぶるナリ

服器 かるいあせ

狩襖

表ニ布裏ハ絹カリ衣ノ代ニ用又東帯色目ニ曰隨身
等着之舎人牛飼所用亦此事之然而又号一衣ト

ふれげさ

甲袈裟

僧衣也須俵注ニ云一ト天竺語也
又云無垢衣ト又云功德衣ト也

かろきぬまとし

狩衣直衣

常ニ小直衣
ト云東帯色目

からいあきぎ

射干

薬
用声ヲ

くろめ

香附子

附子
一葉

くろいひ

菩菜

出干本州ニ須俵ニ骨蓬トアリ俗ニ
河骨然ニ是ヲ以テ訓母トスルナレシ

かいら

水苔

川ノリノ
イシ云

かろいん

藁本

俵訓
ウタメ

くろいさう

鴨頭草

上字声ア一俵訓ツイク并依之月草ト云本州
ニ鴨跖草ト云又竹葉草ト云又ツニ出

かろすうり

枯樓

俗ニカラス
アリト書

くろい

荷葉

蓮葉
一ト

くほよむら

貌好花

カキツハタ
イシ云

かろせう

甘松

俵訓カマナ
ク升

くろい

何首烏

俗ニ云
ゼンブ

かろめ

搗和布

未詳

かろい

菊

異訓かろいよき常ニ
声ヲ用テキクト云

かゝる竹

苦竹

須俣ニ苦竹トアリ本朝式ニハ川竹トアリ
徒然草ニ云呉竹ハ葉ヲそく川竹ハ葉ハう

うづ

藟

又藟同訓又
鬪 籀文ニ

うづ

草麻子

上字作
草俗ニ

常ニ声シ呼フ
ヒニシト云

かいる

黄草

漆物ニ用定
本朝式ニハ

川安ト有

ういさう

海藻

下字又作
藻声ヲ

用ル時ハ海菜ノ惣名訓スル
時ハあぶらうナリ

服器 かつとあそ

狩襖

表ハ布裏ハ絹カリ衣ノ代ニ用又東帯色目ニ曰隨身
等着之舎人牛飼所用亦此事然而又号一衣ト

ふれげさ

甲袈裟

僧衣也須俣注ニ云一ハ天竺語也
又云無垢衣ト又云功德衣ト也

かゝる直衣

狩衣直衣

常ニ小直衣
ト云東帯色目

かいねひ

貝合

又一西復氏かいねひハ古書ニかわねひトモ西行カ
今々あふ二見此師のさるりとあそせはそ打あほふ

かいのう

介殼

貝一
トモ

うぢず

和炭

須俣ニ

うい

棹

舟具須俣註曰有旁撥永日糴ト又械本文未詳
古今雜哥上ニういハみのかいれあつ

かぢ

楫

又橈又梶ハ倭字舟具ノ須俣ニハ
楫字字彙ニ作楫非トアリ

かうこね

香籠箱

源氏ニ

かいら

螺鞍

俗ニ云アヲ
ガイノ鞍

かまへ

鼎

三足兩耳ノ鉄器ノ俗ニ鼎字須俣ニわいカ多ト訓ス
又同書ニ金字ヲカスト訓ス附ク多クノらん一臣

ういのう

眞珠

又贖珠ト
書經ニ

うい

鐵輪

鐵鐵共俗
鑊ハ古文

かまがい

鍔

須俣註曰本文未詳又欽下学集ニイブカニ此字ハ須俣ニハ
さト訓ス注ニ鍛冶用トアリ玉篇ノ注モ亦然リ俗用録字ニ

くいげ

搔筭 下字器氏又一字ニテ杓字ヲ
カイケト訓ス附一楯一敷

かろけ

土器 又瓦器ト
二字ニモ

かう

香 カウハシト訓ル時
芳香氏同訓附

かろけ
又一爐一物
家物語ニ云木曾カ
精進一

かうむこ

香合 順倭ニ又王篇
ニ一奩附ガ

かろけ
又一爐一物
家物語ニ云木曾カ
精進一

かうむこ

合子 順倭ニアリ
俗御器ニ平

かろけ
又一爐一物
家物語ニ云木曾カ
精進一

かうむこ

剃刀 一一口ト有
玄奘三藏カ表

かうし

障子 家屋具
俗ニ格子

かうふこ

唐匱 玉櫃ニモ作又韓
一カラヒツニ音

かん

皮 又いごめん撓一又つくりかゝ革説文曰去毛ノ獸皮也ト
又とろかハ草唐韻ニ粟皮トアリ附かゝこ一籠

かいかり

甲香 香具之本中圖經曰今醫家稀用一トト順倭ニ云
螺屬ノ焼之皆使益辛カ獨焼則臭ト

かうがい

筭 かんゴトト訓スルモ杓音ニ相通テ之又簪又釵俱ニ同訓順倭
曰神冠針也王氏曰女子之筭猶男子之冠ト

くま

搔繩 順倭ニ結草
ト書テ同訓

橈 声ケク作橈同
雪或ハ深田ニハク

かろけ

瓦 又わがらつろ花瓦ト書又をくらろ
をにがらろ鬼瓦皆順倭ニ出タリ

杓ヒ 俗貝杓子
トモ

かうい

靠倚 訓ヨリ
カヨリ

かうむこ

髮鋏 今ハカサニ
ト云

かろけ

鴨居 順倭ニハ一柄注ニ曰本文未詳愚案ニ上ニアルヲ上井下
シ敷井ト可書カ上下ニ溝アレバ鴨居一柄共字義不聞

かうむこ

拷木 罪人ヲ責ル
器ナリ

かろけ

金撮棒 又鉄格
棒ニ

かうむこ

高欄 家屋
具

かろけ

桂權 一蘭漿
古文ニ

かうむこ

高欄 家屋
具

かろけ

桂權 一蘭漿
古文ニ

かうむこ

高欄 家屋
具

かつがぎ

今案を

堅魚木

宮社ノ上ニアル物之古ハ民屋ニモアリトシ古事紀ニ曰カフホフアゲテツクリイハ上堅魚作舎屋ト
アリ神書ニ勝男木ト又ハ可津鳥擬
ヒアリ是ハ万葉ガキトキユ

くろくろ

標蒲

声千ヨボ
ヌノ類

くろくろ

交割

家ノ財寶
シ云棠陰

かせげえ

横首杖

くせい

拐

老人ノ杖
又あ

くいらし

既

常ニトカキ
ト訓ス

かいらう

介抱

又をい
懐

かいらう

刷

又摺衣
ナトイ

くわん

拘

變同
訓

くわん

耕作

かゝあふ

沐

カハアミ
トモ

かぶ

勾引

作句同
人シ
又ヒ

くみどう

神保

詩經

くみどう

告文

かうい

加階

かどへ

主計

唐名金部
民部被官

頭助允屬

くわん

勾勘

勘解由ノ
シ云職原曰

一ハ是強非唐名取
義歟・長官次官判官有

かゝあふ

膳部

職原ニ又回事
紀ニハ夫ト

アリ又日本紀ニみりと御膳是ハ神供之
又上ノ字かゝてト訓メ人ノ姓

かうたの

守殿

又督一又頭一又正一等皆從者
尊室稱之源氏ニハかうのきミ一君

かんばう

看坊

寺院ノ留守
居ラ云

かどあふ

不肖身

数あふぬ
小山女けぬ

かぢ

加持

大日經ノ神変加持經ト題ス加ハ佛ノ三密之持ハ行者ノ三業之彼三密ヲ此業ニ持シト云之神道者流或ハ一ト云ハ佛家ノ言ヲ借テ之附カチクザハ一香水ハ正月八日ヨリ十五日ノ朝ニテ於テ禁中ニ御法事アリ其間三度一アルヲ云

かうめく

視告朔

正月二日ニ初リテ月々有之天子御覽見於百官之行事上日之記録也見公事根源与論語告朔字同意異

かぢやうぐい

嘉定喰

六月十六日行ハル宋寧宗ノ年号ヨリ事起ル其説長キ故畧之本朝ニテハ正親町院ノ御宇ヨリ始ル世ニ一祥ト

かぢをき

髮置

小兒三歳ノ時行之兒ヲ玉女ノ方ヘ向ハセ一ノ親男カ子ヲ左右ノ髮置ト中ノキメシニハサミツ九ノ分ニハサム切綿ヲ

かいまこ

闕窺

又垣間見也日本紀ニ視其私屏ト四字ヲ訓ス旧事紀ニハ視私屏ト三字之伊物ニ付男カいまみくけり

かうろう

嗽訴

上字作嗽俗

かふひ

飼

鳥獸シマシナフ

かうふかひ

圍

又カユム又是ヲ茶道ノカヒニ用

かぢそまへ

片膳

延喜式忌詞七言内奇義之

かうい

往來

日本紀ニ又通

かうりよむ

駟催

源氏夕霧

ア

源氏夕霧

かぢまけし

忤

作忤同又辱義同

神々敷

俗ニミユクニト云義之

歸陣

俗ニ云ノカイチン

咳嗽

上作咳俗訓スハフキマニ

合力

上声カフ

黴却

カヒクサシ一臭

拷問

又嗽問トモ

かきしまうす復申

又復養氏
又かきしまうす氏

かきまうるき

可復

源氏ニアリ
論語学而

言復註ニ復
猶復トアリ

かきまうる

教習

下音ニ作習俗
又講トモ同假名

かきいひ

云裕

又コレトイヒ
云恰

かきまて

却

かうけん

効験

かんのう

堪能

かいてん

戒名

又同訓ニ
改名

かんとん

巖牆

俗或岩重
或五調

かきこ

可憐

かきこ

故

かきあ

還郷食

正月賭射ニ負方ヨリ
郷食ニスルシト云

かきこ

歌頭

正月踏歌節會ニアリ常ノ風流
ホニ音頭ト云ガゴトシ

かきり

反音

音楽ニ律ヨリ
呂ニ遷ラズ

かきり

高聲名謁

かきん

假名遣

又一
使氏

かきん

姦謀

上又
奸

かきり

誣顔

西行カキニカキカキカキ

かきり

芳

又芬又郁又香カニバシト訓スルモ
相通ス世ニミカキト書

かきり

艱勞

かきり

加増

作譜
同

かきり

雅意

かきり

瘡

瘡ナトニ
頃倭ニ

かきり

薰

タキモノ
ト訓ス

かきり

妬

玉篇ニハ妬同ト
アリ訓子タム

かきり

歸

作歸同又還又廻又同俗ニ皈
又鳥ノ印ノカニハ字

附かきり

かろくわや一歎ふさ一去又かふ返

かくろひ

俗陰又陰万葉ニ比源氏物語ニかくろえ業平ノ歎ニ云れ
たりまひくろふ又かけろひ氏西行力歌よるれつものせ

のま乃みけろひて
共ニ五音相通

かんく

乾 又燥ニトノカハツ
ハ渴字

こたがひ

参差

詩經ニ又方一氏和書多ハ方遠トアリ
一ハ禁忌ノカラ替ノ義ノ

かげえ

影副

一禪及親行ガ書ニモかげえトアリ不詳てハハカハル
字ナレバト書テ可ク都テ彼一我一何一ナト云時ニ

用フコソハ歯
音ナ一ナリ

くままりし

賽 神祇ノ
詞

かひり

開合

言語ノ一ノ之様乗ノ祝詞ニ開ロト
云アリかいじノノカナ也

無甲斐

下字作斐俗ノ附いひ
くひる一無云甲斐

かふる

替

又易又改又代
又変ニナ同訓

くいらり

書

かうめ

蒙

又被又かふる氏後京極ノ歌ニほれをん
ニこれ利生をかかへんを

かこへ

傍

又片邊氏又かこへすと云諸涼
かこへまき風やうらんかこ

かこへ

傾

作傾俗今案ニかこ
あ片向心

かあふ

叶

与協同字
又稱又合

かろく

顧

又省

くろく

考

源氏ニさらくの
くろくがトアリ

かろみ

悲

附かろいふを嗟哉いと書ニ傳アリ苦樂モ亦
然リ悲哀属傳アリ

かろく

渴仰

作渴作仰共ニ俗ナリいと云
圓遠一ト云ナリ

かろく

亢龍悔

易乾
上九爻

かろん

幸甚

附くび
一便

かろしと

辛苦

伊物ニミ成るくよといけり
けつとからくしてぬきとむ

な

頬

西一東一等々
常々人ノ今ト訓ス

かんよう

肝要

かりく

恰好

アタカヨシト訓ス世ニ
合好ト書ハ悪ト云

くりと

返言

又一命
又一命

くろく

好色

かうく

奉行

上字おやだ
らト訓ス又選

かぞ

數

算字同訓古
ニかぞトモ有

くろく

講釋

又口釈ノ時ハ二うろくノカナ
又一談又一師一堂等

かうさん

降参

訓(リ)ケル
又かうさん

か

語

又談又話日本紀ニ
密契ノ二字ヲ訓ス

くろく

行跡

口跡ノ時ハ
くろく

く

偕老同穴

毛詩ニ
夫婦堅

かん

甘南備

姓

くは

河勾

又一津
又一路

くろく

河村

又一野
又一内

か

金集

又一持共
人ノ姓

ふだ

合田

姓

く

片穂

又一方
又一剛

かう

幸島

姓

か

加藤

附一治
又一綱

んち

がら

神地

附一門

く

高

附一坂
一志

よ

與變与変と変よ

乾坤

よみづき

宵月

西ひノ差別用所ニナラヒアリ
附よる夜半

ようれいぼし

殒靈星

悪星之太平記ニモ天王寺ノ
一ノ見ハバト謡トアリ

よむひり

流星

天文要録ニ此訓アリ
順倭ニ名奔星

よみつ

四會

作一辻
俗

よみぢり

黄泉道

上ノ二字
日本紀ニ

よしみぢり

雍州

山城又
山州

よしみがい

要害

城ノ一ニ云
西南夷傳ニ

よるれね

夜御殿

天子ノ
御寝所

鷹屋院

在紙屋
院北今

よかしのきぎ

幼主

帝十五
以前云

よかしのきぎ

横川杉

山門之
内名所

よめてん

夜御殿

荒廢シテ人
不知之 拾芥ニ

よめてん

用明天皇
三十
二代

よるい

庸醫

下平醫師ノ一ヲ云伊川先生曰
病臥於牀委之 一此之 不慈不孝

よとろ

役丁

作役亦躰用ノ心アリ又フクムルヨク共訓ス古事紀ニハ
仕トト書テ同訓又同訓ニよほろ臍順倭註曰脚躰ト

よるい

腰眼

本エウ
灸穴
ノ名

よるい

踏雪馬

下学集ニ
ハ雪踏

よるい

介蟲

都テ貝類ノ
一ヲ云

よもぎふ

蓬生

又源氏 卷名
又一ノ宿

よるい

白芷

薬ニ声
ヲ用フ

とらう

筍

竹ノ一ノ常ニヨト云史記ニ又俗ニ筒字ヲ以テヨト訓スルハ非也

服器よりのを

四絃

琵琶ノ一

よろきやく

要脚

銭ヲ云

よろひをくれ

鎧直座

束帯色目曰當時着用スル直座ノ袖ト袴ノスソヲ結テ其上ニ鎧ヲ着ス甲冑ノ時着スル直座ハ錦カ又ハ

金襴等

よろいよ

腰輿

天子ノ乗物

よろい

鎧

虫尤初テ作之甲冑ノ二字下字集ニ上ヲよろい下ヲかざト訓ノ其注ニ日本ノ俗呼甲爲冑讀大ニ誤歟トアリ然トモ

今諸書ヲ考ルニ甲冑ノ二字ハニ分ナクよろいハカザト訓スヘキノ注カカザハ覺整ト書ベシ字書ニ首鎧トアリ鎧ノ一字モよろいトナ訓シカカザハカザトヨムベシハ覺整ノ二字ヲ首鎧ト注スルハ首字ナキ時ハ身ニ著ラヌトキニ然ハトよろいト讀カタツヨクカザト讀台ハキナレベ此訓今案ニ身ヲ掩モノナレハ云カよろいナホフ直拘通シカカザハカザルニ通ス又俗ニキセナガト云文字著背ト書大平記ニ

雑事 よろい

遙拜

作遙俗爰ニ居テ彼ヲ拜スルニ

よむひ

齡

作齡俗ニ左日記ニ年字ヲヨメリ

ちうせう

幼少

附よろい

ちうぎ

容儀

ようり

癰疽

腫物名上ト下ト病ハニ之古書ニイウソトアリ之然ハ偏假名ノ時ハ用ヒ全假名ニハヨウト用來

よみぐる

蘇生

又活又蘇字

よしう

與黨

又夜盜モ同カク

ちこたん

横

又よここふ又よこたんと又よこたれ土左日記ニよこたんのよこたれをよここふ又古今ニよこたれをよこたんの中心

よぶん

夜居

雁字ニ云

よぢれゆる

攀躋

上字ヨツルトヒ

よろがふ

徒倚

日本紀ニ又源氏夕類ニきらぬのよそとよぢよひきりてよろがひと云れたる

よほ

弱

又懦

よろこがひ

悦

伊物ニよろこがひていしうけり

よう

善

又能或ハ悪アシウ或ハアレイ如此ノ類同事也
俗ニよふよひあふあふと書只非也

よとのづふ

遯世

作道
同

ようたう

要道

又一用

よづふ

喚

又呼又器

よりあふ

寄合

らゆひ

萬

又万

らたあふ

世風俗

又世習
トモ

よそほひ

糶

又糶又儀日本紀ニ古事紀ニ
糶東ノ二字ヲヨム又よそほひ也

らうめ

用意

附一捨
心

よろへ

準

作准同又をすら
一也訓ス又是ラシ

らうめ

サケスム
ト訓ス

よとけ

終夜

トモ
よとすがら

ようそい

歿怪

作妖別字作
恠俗字ナリ

らうせう

勇勝

平調祭
但無舞

よとり

節折

十二月晦天子ノ御タケヲトリ被アリ年中行事ニ
六月晦又十二月追儼ノ夜一ノ御被アリト云又

枕草子ニよとりれ
くらごり蔵人

よとちう

欲情

一廉
心

よらとち

横坊

小路氏又一地
人ノ姓也

よーえ

良枝

よるふ

米生

よち

余地

よづみ

吉積

倭字古今通例全書卷三終



